

アズ・タイム・ゴーズ・バイ/カーメン・マクレエ・アローン〜ライヴ・アット・ザ・ダグ
／ カーマン・マクレエ

1973 年 11 月、東京新宿ライブハウス「ダグ」にてライブ録音、エンジニアは別宮 環。
アナログ 8 チャンネルテープレコーダーにて録音〜ビクタースタジオにてミックスを行う。
アナログマスター音源からのハイレゾ化。

〜エンジニア別宮氏からのコメント〜

アコースティックピアノはベーゼンドルファーを使用、出来るだけベーゼンの素直で深みのある音を録音する為、ノイマン U-87 マイクを 3 本使用、カーメン・マクレエの歌をダイナミックマイクにてリアルに録音する。当時の出張録音コンソールはイコライザー・コンプレッサーが無く、マイクレベル調整のみの録音卓であり、素直な音色で録音が出来た。解説書によるとカーマン・マクレエによるピアノの弾語りは初めてであった。当事のビクターの制作プロデューサー下田さんは「たとえあなたが 1 曲しか歌えないとおっしゃっても、私どもは喜んでその 1 曲のためにレコーディングを用意するであります」とマクレイに伝えたとのこと。この熱い思いが名盤を生み出した。

カーメン・マクレエの生々しい歌の表情〜柔らかに深みのあるベーゼンのピアノサウンド、まさに名録音・名盤である。

この録音は 1974 年スイングジャーナル誌ジャズディスク大賞金賞を受賞する。

HD マスタリングの音創りとして、アナログマスターテープの音が素晴らしく、アナログテープレコーダー再生イコライザー低域を少しブーストしただけで、ダイレクトに A/D 変換するサウンドアプローチとした。

サウンド・プロデューサー 高田 英男

Recorded in performance at Dug, Tokyo

Produced by TETSUYA SHIMODA

Engineered by Tamaki Beck

HD Mastering by Takeshi Hakamata 「FLAIR」